

# 一般質問の概要

令和2年第4回 二宮町議会定例会

○12月10日（木）午前9時30分～

（羽根かほる、大沼英樹、坂本孝也、前田憲一郎、渡辺訓任 各議員）

○12月11日（金）午前9時30分～

（一石洋子、露木佳代、根岸ゆき子、小笠原陶子、松崎健 各議員）

※2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。

※感染症対策のため、議員の質問時間は件数に関わらず30分です。ただし町執行部側の答弁時間を含みません。

No	質問予定議員	質問概要
1	羽根かほる 議員	<p>公共施設と庁舎整備の今後の方向性について （放映件名：公共施設と庁舎整備の今後の方向性について）</p> <p>平成29年「二宮町役場庁舎整備手法調査報告書」作成から約3年以上が経過し、その間、「新庁舎建設基本構想・基本計画」（案）に基づく基本設計費の予算計上は、事実上議会で2度否決となった。令和2年1月には現在の新庁舎建設の方針は、「白紙撤回」と町長が明言したが、引き続き新庁舎建設の計画は進行をしている。令和2年度の予算には公共施設の耐震診断の予算が計上され、予算は可決。町は、公共施設と庁舎整備を分けて考え、庁舎整備はスピード感を持って進めると幾度も答弁しているが、町民の健康福祉の増進にもつながる町民活動のベースとなる公共施設は、町民の利用度が非常に高く、町づくりの要となるハード面の整備である。また、コロナ禍において感染拡大が続く中、巨額の投資をし、庁舎を新設する方針が適切なのか。既に、時代はまさに、スピード感を持って変化をしており、町民が安全、安心できる毎日を取り戻すべく、町民の生活を支える施策こそが今求められているのではないか。この国難とも言える状況において、この町の未来をどう作っていくのか。公共施設及び庁舎の整備の今後の方向性について、以下の視点から、問う。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 町民活動を支えている公共施設の整備の方向性は。</li><li>2. 庁舎建設ワークショップの総括とその結果からの町の見解と方向性は。</li><li>3. 庁舎と公共施設の今後の方向性を見据えた未来への町づくりは。</li></ol>

2	大沼英樹 議員 (2件)	<p><b>町有財産の管理と組織の役割について</b> (放映件名：町有財産の管理と組織の役割は適切か)</p> <p>町有財産の管理と組織の役割分担は適切かを問う。 9月議会の質問で実質単年度収支が黒字だと言う答弁がありました。今回の質問に鑑み町内施設の現状を調査しましたが、今後多数の施設で更新が必要となることは承知して居るところですが、現状は老朽も進み手つかずの傷みが各所に見られます。ここで問題なのは明らかに適切な管理を怠り老朽を進めたとと思われる個所が多くあり町民の血税を注ぎ造られたものと言う、いわばお預かりしている財産としての管理意識が希薄ではないかという事です。この様な状況では単に老朽を理由に更新の計画をすればよいものでもなく、事業決算が黒字だと胸の張れるものではないと思います。その様に考える中で現在に至るまでの町有財産の管理について質問をしたいと思います。現在、数ある町有財産の管理方法は業務に係わる担当課が概ね管理しているとのお話があり、直接聞き取りもしていますが9月の決算審査中にも各課長に施設の管理について十分な見識を持たれているのか質問をしています。当然、ある一定の知識は持たれているのですが、町民の血税を投じて取得、造作、維持、管理を行う実態から見て考えればこの全てにおいて適当ではなく「適切」が求められるところではないかと思うところです。そこで、以下質問の項目を上げさせていただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当職員に対して施設管理の方法や構造、建築物に関する知識の研修を行っているか。</li> <li>2. 財務課・財産管理班の業務と責任はどの様か。</li> <li>3. 財産管理を職務とするための必要要件はどの様に考えているか。</li> <li>4. 不適切な管理で多大な損害が発生した場合に誰が責任を負うか。</li> </ol> <p><b>役場新庁舎建設計画の進め方について</b> (放映件名：2度の否決をどの様に受けとめるのか)</p> <p>度々、否決された役場新庁舎建設計画について責任を問う。 平成31年度の本予算から基本計画策定費用が削除され、令和元年6月補正予算で否決と2度の議会議決を見て白紙と言う発表をしながらも、論点をはぐらかすかのように場所の変更をせず構想はそのままに計画を練り直すとして町民を集めた2度目のワークショップでは混乱を招いている。日本国内で過去10年間に風雨災害は10件、500名に迫る方の命が失われている。そのうち5件はここ3年間に起きており、この事からも政府では浸水想定河川を中小河川にまで幅を広げ水防法の改正に着手しようとしている。この様な災害と予防警戒が進む中にありながらも、なんと、二宮町は水害ハザード、土砂災害警戒区域周辺に何かのこだわりか未だ、新庁舎の計画適地として計画を進めようとし、現実に直視する気が無いのか賛成する議員が存在する、中途半端な意地や忖度が将来、鬼気として迫る災害対応に後れを取り被災した町民を前に私が建てました、私が賛成しましたと胸を張れる事業になるのでしょうか。今まで申し上げているとおり、この件については何度でも質問を致しますが感情や過去にとらわれず前向きな検討を頂けますよう宜しくお願い致します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界的な異常気象と災害についての認識はいかがか。</li> <li>2. 議会否決と議員の発言をどの様に受け取っているのか。</li> <li>3. 役場新庁舎計画に関する町民検討会、ワークショップ、意見交換会は適切か。</li> <li>4. 浸水の危険に対する考え方はいかがか。</li> </ol>
---	--------------------	---

3	坂本 孝也 議員	<p><b>ラディアン裏の新庁舎計画をめぐる村田町政の政治手法について</b>  <b>(放映件名：新庁舎計画をめぐる町長の政治手法について)</b></p> <p>1. ハザードマップと葛川対策について</p> <p>2013年(平成25年)4月6日(土)16時57分に、大雨・洪水・波浪・警報発表、暴風警報・雷注意報も出る中、時間雨量 20時～21時に13.5ミリ、21時～22時に57ミリ、22時～23時に24ミリに達した。</p> <p>このような実体験をした私からして、そして県から発表されたハザードマップが示している通り、このまま役場庁舎をラディアン裏に造ることは疑問です。</p> <p>神奈川県は、雨量50ミリ対応となっています。確かに50ミリを超えたら溢れました。</p> <p>役場庁舎建設は、ラディアン裏がハザードマップの中であること、また新役場庁舎にたどり着くまでのラディアン周辺の道路環境、そして周辺で町民が生活している生活環境までを織り込んだ基本設計でなくては賛成できません。役場新庁舎だけがセーフで、周辺で生活している多くの町民には見舞金で済ますつもりなのか。それはおかしい。役場も周辺住民もすべてがセーフ、言い換えればハザードマップの色が真っ白になるには葛川対策をきちんとすることです。見解は。</p> <p>2. 町民アンケートとワークショップという手法について</p> <p>町は町民50名を対象に4回のワークショップを開催しました。講師の先生方を招いての勉強会が終わり、3回が秘密会、4回目が12月6日(日)の報告会です。</p> <p>予見できる災害を根本的に解決しようとせずに、町民生活の犠牲を承知しながら役場新庁舎建設に踏み切ろうとするのは、行政の手法としては間違いだと思いますが、見解は。</p> <p>3. 代替案はないのか</p> <p>一方、老朽化の激しい今の庁舎移転が急がれるというならば、駅前町民会館跡地と二宮小学校の体育館とで役場を建てればよいが、現在駐車場として稼働している業者との契約は5年となっています。契約寸前に調印しないように町長に申し入れましたが、3千万円の地代が町に入るからと契約をしてしまい、1年が経とうとしています。八方ふさがりです。どうしますか。先が読めない行き当たりばったりの行政運営では二宮町民はどのように考えたらよいのでしょうか。</p>
---	-------------	---

4	前田 憲一郎 議員	<p><b>児童・生徒の安全安心は保障されているのか</b>  <b>(放映件名：児童・生徒の安全安心は保障されているのか)</b></p> <p>本年6月議会の一般質問で、子ども達は、学校行事で育つという言葉があるように、学校行事はそれぞれの学年の発達段階に合わせた目標を持って取り組んでいくものであり、それが子ども達の色々な成長につながっていくと思います。それができるのは学校行事でしかありません。学校行事をできる限り実施していただきたい。と要望させていただきました。コロナ禍で多忙な中、どうしたら学校行事ができるかを一生懸命考え、工夫され、各小学校の運動会、中学校の体育祭、文化祭等様々な行事を実施していただき、子ども達の成長の糧になったことと思います。将来、子ども達に収束の見通しが付かない予期せぬ出来事が起こっても、きっとこの体験は役に立つと思います。教育目標にあるように生きる力を育てていると思います。</p> <p>学校は、笑顔あふれる場であり、子ども主体でワクワクする活動をする場であると思います。しかし、現状はどうでしょうか。笑顔あふれる場、ワクワクする活動の場となっているのでしょうか。教育委員会は、学校教育をより一層充実させていくと話されていますが、小学校、中学校の実態を見ますと、未来の二宮町を担う児童生徒が日々生活する学校生活における安全安心が保障されているのか、疑問に感ずる点が多々あります。各学校の校舎等の現状を見ますと、二宮小学校では、教室の雨漏りで教科書が濡れてしまったこともあり、体育館への雨の吹込みも激しいと以前より指摘していますが、雨樋を掃除したので大丈夫とお門違いの答弁しか得られず、補修修繕をする気配さえありません。6年生の児童が町になんとかしてほしいと談判に来たとも伺っています。二宮中学校では、築60年を超えている校舎の雨漏り修繕をしても、またすぐ雨漏りがしてしまいます。1階廊下と壁の隙間から水が出てくるとも聞いています。一色小学校の体育館の外壁には大きなクラックが入っています。大きな地震が来たら壁が崩れるのではとの心配がされています。山西小学校も雨漏りがあるにもかかわらず、これらの修繕が行われていません。これには何かお考えがあるのではと疑問を感ずるところです。</p> <p>近年、児童生徒を取り巻く性に関する問題が急増する中で、学校における性教育への期待は大きくなっています。二宮町では性教育はどのように行っているのでしょうか。</p> <p>神奈川県内他の町村を見ますと、ALTにかける予算を増額し、生きた英語を学ばせる機会を増やしていますが、二宮町ではALTを減員してしまいました。これで、児童生徒により満足のいく、生きた英語を学ばせる機会が確保できているのでしょうか。コロナ禍のおかげで本年度中にタブレットを児童生徒一人一人に1台を導入していただけるわけですが、有効に活用するためのルール作りはできているのでしょうか。そこで、次の要旨についてお答えいただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童生徒が日々生活している校舎等の環境は整っているのか。</li> <li>2. 児童生徒に対する性教育はどのような内容で実施されているのか。</li> <li>3. 英語教育の先端を行っているというが、生きた英語を学ぶ時間は十分にとれているのか。</li> <li>4. タブレットを有効に活用するためのルールとマナー等の手立ては講じられているのか。</li> </ol>
---	--------------	---

5	渡辺 訓任 議員 (2件)	<p><b>少人数学級実現へ町としての一步を</b> (放映件名：少人数学級実現へ町としての一步を)</p> <p>コロナ禍の中、突然の臨時休校と学校の再開、さらに夏休みの短縮を経て現在に至っている。この状況の中、全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校長会や、知事会、市長会、町村長会を始め、少人数学級の実現を求める動きが強まり、文部科学省は来年度の概算要求に少人数学級の実施を盛り込んだ。町では、9月議会において、町長・教育長は、少人数学級の良さを認識し、国・県が進めるとしたときにすぐに実現する考えが示されている。</p> <p>保護者の間でも、少人数学級編制の良さ・必要性について徐々に認識が広がっている。一方、教育関係者からは少人数学級の良さを実現するためには、施設整備だけではなく授業や学級経営について、教職員が準備を整えておくことが必要との指摘もある。少人数学級編制を町教育の軸に据えることについて問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 30人学級編制をすすめるための課題として、教職員数・教室などの設備、指導体制作り、町民の理解や支援の醸成など、どういったことがあるのか。</li> <li>2. 今年度、学校校舎の状態について調査されているが、状況はどうなのか。</li> <li>3. 今年、コロナ禍で臨時休校が実施されたが、子どもたちの学びに対する影響をどのように捉えているか。</li> <li>4. 少人数学級編制を二宮町らしい教育の軸にすえ、独自に研究推進を進めることについてはどのように考えるか。</li> </ol>
		<p><b>総合的な鳥獣害対策を進めよ</b> (放映件名：総合的な鳥獣害対策を進めよ)</p> <p>イノシシがせせらぎ公園のショウブ園を荒らすなど、生息域を広げている。幸い、人的被害はないものの、捕獲数は増加傾向との認識である。農業被害対策として、電気柵の導入がすすみ、農業被害についても抑制されているとは言え、抜本的には鳥獣害の生息数を減らす・管理することが必要と考える。</p> <p>町の環境対策として、耕作放棄地・里山管理とも結びつけた総合的な鳥獣害対策を進めることについて問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各鳥獣による被害状況と被害の見通しについてはどうか。</li> <li>2. 集落環境整備の進捗状況は。</li> <li>3. イノシシの生息数を含めた生息状況は把握されているのか。</li> <li>4. 食肉としての利用は進まないのか。</li> <li>5. 里山管理、耕作放棄地対策との連携を、庁内外での体制整備や各種団体との連携も合わせて進めることについてどのように考えるか。</li> </ol> <p style="text-align: right;">以上</p>

5	<p>一 石 洋 子 議 員 (2 件)</p>	<p><b>子ども・若者を支えるセーフティネットのために (放映件名：共生社会に向けた連携のしくみを求めて)</b></p> <p>コロナ禍、セーフティネットの強化が喫緊の課題である。 既に高齢者については介護保険事業、地域包括支援センターが介護保険契約者を訪問するなどアウトリーチが進んでいる。子ども、若者については学生であれば学校保健が中心になって全児童生徒にアクセスできるはずであるが教育と福祉の連携の体制はいまだ整っていないことが通説である。また学校を卒業すれば自らあるいは家族がアクセスしなければ支援対象とはならず、このところの生活困窮者自立支援法の一環で県直轄の事業として行われている就労準備支援事業や、学習支援事業があるものの、アクセス数は非常に低い。児童福祉法に基づく0歳から18歳までの「第2期二宮町子ども子育て支援事業計画」では子どもの貧困、またひきこもり等、困難を抱える子ども・若者への対策は身近な人や相談窓口、関係機関と連携し、きめ細やかな支援が必要とある。しかし県直轄の施策が重要な部分を担い、今後求められる二宮独自の地域資源を活かすことは困難ではないのか。</p> <p>一方、母子保健法の改定による子育て包括支援センター設置が、赤ちゃん訪問というすべての赤ちゃんにアウトリーチするという施策につながり、改善の兆しはみられるところだ。</p> <p>しかしながらこれからさらに増える二宮町の困難を抱える子ども、若者支援について現状の施策の課題と対策を問いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コロナ禍、町内の子ども・若者の困難に対する町の施策を問う。</li> <li>2 令和3年4月社会福祉法の一部改正が施行される。 住民の複雑化、複合化したニーズに対応する市町村の包括的な支援体制の構築の支援について町はどのように受け止めるのか。</li> </ol>
		<p><b>新庁舎ワークショップでの専門家の提言を如何に受け止め活かすのか (放映件名：新庁舎 WS 専門家の提言いかに受け止めたか)</b></p> <p>「新庁舎について本気の住民ワークショップ」が終了した。 講演を行った3人の専門家の提言は優れた視点を持っていたと評価する。 参加された住民の方々から様々な意見が出された。 町はラディアンホールでの公開シンポジウムで広く町民と情報共有し、専門家とともにこのワークショップの取りまとめをし、これを活かして基本計画に係るとしている。 行政が二宮町の未来に向けた公の在り方とその形についていかに考えているかを以下の要旨で問い、また、現庁舎のここ数年の機能の持続化と充実を図るために議論を深めたい。</p> <p>要旨1 行政が今までの経緯を経て、現時点で3人の専門家の講演をいかに受け止めたのか見解を問いたい。</p> <p>①加藤孝明氏の講演「災害リスクの考え方」 時代が急激に変わり過去に捕われない根本に立ち返る、市民感覚、素人感覚が重要で行政の縦割りの隙間を埋めなければならない。 目的を複合化し、総合化する観点でその建物を建てることで色々な地域課題に対応させていくことが重要 防災については、行政がどこまでできるか、住民がどこまで出来るかについて丁寧なコミュニケーションが必要で、水防災意識社会を作るのに昔の知恵を活かすべき。 また、防災もまちづくりという多様な観点が必要と説明されたことについて。</p>

		<p>②井上岳一氏の講演。「未来に求められる庁舎機能とデジタル化」について 総務省は施設総量規制の方向性を持ち、広域合併の可能性もある。庁舎は分散化によるリスク分散という方策もある。 21世紀型都市再生計画として紫波町「オガールプロジェクト」～稼げる公共施設と人が集まるところをつくる公民連携、また佐賀県の一定期間芝生を張ってみただけで人が集まり賑わいが生まれた駅前の実験デザインを引用したこと。 来年には古くなるデジタルの事案よりも何が公共権、公共空間の本質化を考え二宮町で、それがどうなっているを考えることが重要と力説されたことについて。</p> <p>③山崎俊裕氏の講演「新しい庁舎とラディアン周辺のまちづくり」 公共権発信の場、市民自治の象徴としての庁舎。 施設複合化の回遊動線、市民空間のゾーニングの可能性。 100回の行政も入る精力的な市民ワークショップを実現した立川市の事例。やはり紫波町オガール等引用され、CO2、ランニングコスト削減も強調されたことについて。</p> <p>要旨2 新庁舎について今まで行政側職員側から、自らが働く場である庁舎の在り方について意見表明を聞く場面がなかった。今まで、また今後数十年にわたり求められる二宮町の庁舎のあるべき姿、職員の働きやすい、職場環境について当事者ならではの意見表明が欲しい。</p> <p>要旨3 今回の学びを今とこれから数年の現庁舎の職員の働く場、福祉の相談窓口、防災拠点としての役割と施策の向上にいかにか活かすのかを問う。</p>
7	露木佳代 議員	<p><b>町が所有する公用車（小型バス、29人定員）の現況と今後について （放映件名：町バスの廃止は町民の利益に資するのか）</b></p> <p>町は現在、運転士を含め29人定員の小型バス（以下、町バスと表記）を所有している。 年度初めは障害者のスポーツ大会、戦没者追悼式の送迎等、6月の後半から8月ぐらいまでは、学校の水泳授業のための送迎（学校と温水プール間）、学童のプール送迎、秋から年度末にかけては、商工会、地区、各種団体や協議会の視察や研修などで活用されており、平成30年は73日、令和元年は74日の利用申請が出ていた。 課毎にみると、授業のプール送迎で教育総務課、生涯学習事業の送迎で生涯学習課の利用が多く、次いで、学童のプール送迎で子育て・健康課、遺族会・保護司会・障害者団体の送迎や民生委員の研修等で福祉保険課の利用頻度が高い。以降、議会事務局、産業振興課（農業委員会）、防災安全課と続く。 少し前から「町バスが廃止されるのでは」という声を聞くようになったため、「今後バスが廃止された場合、事業に影響はないか」ということについて、バスを利用している全課にヒアリングしたところ「バスのほうが利便性が高い場所への研修や視察等があれば、民間事業者からバスを借りる予算を立てる」という回答だった。そのような基本スタンスはあるようだが、予算要求をする時期と、視察や研修の場所が決定する時期には差があり、結果的には、研修や視察は、公共交通で行きやすい場所に限定されていくのだろうと想像される。 平成30年から令和2年の、町バスの維持管理経費は、毎年約200万円、そのうち約150万円が運転士の人件費である。確かに町バスが廃止となれ</p>

		<p>ば、200万円の削減にはつながるが、例えば学校のプール授業の送迎は、民間から借りるバスの台数が増え、15日（2年間の平均日数）×52,800円（教育総務課でプール送迎のために借りている民間のバス代と同額）=792,000円が毎年新たに計上されることになる。また、障害者を対象としたスポーツ大会や、遺族会の送迎などの用途でも10～20万円が計上される可能性が高い。最低で見積もっても約100万円の削減にしかないし、何より、経費等では見えない部分で町民への弊害があるのではないだろうか。社協のバス（町バスと同型）と町バスとを合わせて1台にするならまだ理解できるが、社協バスはすでに今年度で廃止を決定してしまっている。町バスの現在の状況、活用、維持費、課題と解決策、社協との協議、今後について確認し、町バス廃止を決定した場合、それが本当に「町民の利益に資するのか」を問う。</p>
8	<p>根岸 ゆき子 議員</p>	<p><b>二宮町総合戦略からみる新たな活動の果たす役割とは</b> (放映件名：総合戦略からみる新たな活動の役割とは)</p> <p>1. 二宮町総合戦略について聞く</p> <p>① 第1期二宮町総合戦略を平成28年3月に策定。狙いと二宮町総合計画との関係性を整理する説明を改めて聞く。 ② 令和2年3月に策定した第2期総合戦略との違いは何か。 ③ 総合戦略に掲げるビジョンと今後について。</p> <p>2. 第1期総合戦略期間中にそれまでとは違う動きが町に出た。これらは第2期総合戦略の中でどのような位置づけにあり、どんな役割を果たしていくのか。</p> <p>① 地域再生協議会と関わりのあった、教育と福祉の総合戦略下での現段階での評価と第2期総合戦略での期待を聞く。 ・平成31年度から本格化したコミュニティスクール ・町内3地区で作られた地域包括の第2層協議体 ② 地域づくりにおいては一色小学校区地域再生協議会が発足から5年を経て来年度で解散する方向にある。この組織活動の評価と今後の展開について。</p>
9	<p>小笠原 陶子 議員 (2件)</p>	<p><b>コロナ禍における子ども食堂の支援について</b> (放映件名：コロナ禍における子ども食堂の支援について)</p> <p>地域別で見ると2016年の神奈川県内の貧困率は7.7%、ひとり親世帯の貧困率は45.6%とされています。 そして、地域コミュニティの繋がりが弱まっている今、貧困世帯の子どもたちへの支援をいかに届かせるかが課題になっています。 そんな中、地域の子どものための食事の提供、居場所づくりを行っていることから、こども食堂の役割が大きくなってきています。 こども食堂の数は2018年3月時点で神奈川県内で169箇所、横浜市においては2015年の時点で1箇所のみでしたが、2年後の2017年には70カ所を超える食堂があることが分かっています。 二宮町でも3つの子ども食堂が存在しています。コロナウイルス感染症が流行する前はそれぞれが定期的に行われており、子どもの貧困や、孤食対策に重要な役割を果たしてきました。 しかし、現在は拠点とする公共施設が使用できず、開催されていません。</p>



		<p>そこで伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども食堂の果たす役割と3つの団体の活動をどう町はどのように認識しているのか。</li> <li>2. 開催場所がない子ども食堂の支援を望むが、その相談体制と対応はどのようにしていくのか。</li> <li>3. 子ども食堂が果たしてきた地域のコミュニケーション活性化を守るための支援は色々あるが、その一つに町民活動推進補助金がある。申請にあたりサポートセンターには専門の支援員がいない。申請相談の援助はどのようにしているのか。</li> </ol> <p><b>お試し移住を含めた定住促進について</b> (放映件名：お試し移住を含めた定住促進について)</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大や生活様式の変化で、近距離移住の候補地として神奈川県相模湾沿いの自治体の人気が高まっている。この機会を絶好のチャンスととらえ、一色小学校区地域再生協議会では、町内の団地などを利用し、2泊3日の移住体験を「お試し移住体験」として現在実施中である。この事業には12組の募集に対し、24組の応募があった。これは、国の補助金を活用した事業である。</p> <p>町もすでに「このみやLifeプロモーション事業」で順調に成果を上げてきているが、さらに宿泊体験をすることで広がりを持てると思います。</p> <p>そこで伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. この事業の実施については、各関係者の協力のもと実現できている。この試みを十分精査し、一色小学校区地域再生協議会が来年度解散した後も、この有形無形の財産を生かした取り組みを望むがいかがか。</li> <li>2. 移住体験者の方を町内案内する機会を得たが、移住希望者に町の良さを案内できる観光の視点とは違ったガイドボランティアの組織化を望むがいかがか。</li> </ol>
10	松崎健 議員	<p><b>新型コロナ禍に対する町の取り組みは</b> (放映件名：新型コロナ禍に対する町の取り組みは)</p> <p>新型コロナ禍が世界経済を減速させる中、中国の一人勝ちの様相が強まっている。欧州や米国で感染が再拡大し経済活動の停止を余儀なくされている一方で、国際通貨基金の見通しによると、今年度の中国のGDPは前年比1.9%増で、主要国の中で唯一プラス成長が見込まれている。中国一人勝ちの背景には自由主義諸国では実施が困難な人権を無視した強権的ともいえる感染防止策が功を奏していることが挙げられる。10年後、50年後に今の時代を振り返ったときに、「パンデミックを克服できたのは中国のような国家システムだけであった。」ということになるのか？自由主義を標榜する政治システムでも十分に対応出来るのか？国だけではなく私たちのような小規模な地方自治体もそのことを念頭に緊張感をもって最大限の効果を上げるべく新型コロナ禍への対策に向き合っていく必要があると考える。</p> <p>そこで以下問う。</p> <p>要旨 1. 感染者数急増を受け飲食店への時短営業や休業の要請が都道府県で相次いでいる。二宮町ではクーポン券をはじめ外食を促す政策が講じられているが、どのような状況変化（町内での感染拡大等）を受けて、どのような対策を講じるつもりか。</p>

		<p>要旨 2. 感染者数急増を受けて、病床のひっ迫、通常医療への影響が報じられている。町内で感染者が出た場合、町外の医療機関へ搬送されることになるが、対応は万全か。</p> <p>要旨 3. 新型コロナ禍を受け、「新しい生活様式」の実施が求められている。これは従来の構想・計画（二宮町総合計画基本構想の他、役場新庁舎・小中一貫教育校に関する構想・計画等）に変更を迫られるものと考えがいかがか。</p> <p>要旨 4. これまでの町の緊急対策は、国からの交付金等を受けてその都度策定してきた感がある。ポストコロナをも見据えた総合対策を策定すべきと考えがいかがか。</p>
--	--	--